

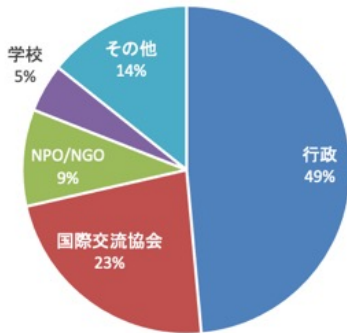
研修・コンサルティング事業

各地での多文化共生への基礎理解や、テーマ別に具体的な実践事例の紹介、今後の取組みについて考える場づくり等をサポートする。



【主な講演テーマ】

- ・多文化共生とは
- ・やさしい日本語
- ・災害時対応
- ・地域日本語教育
- ・外国人と人権
- ・発達障害支援

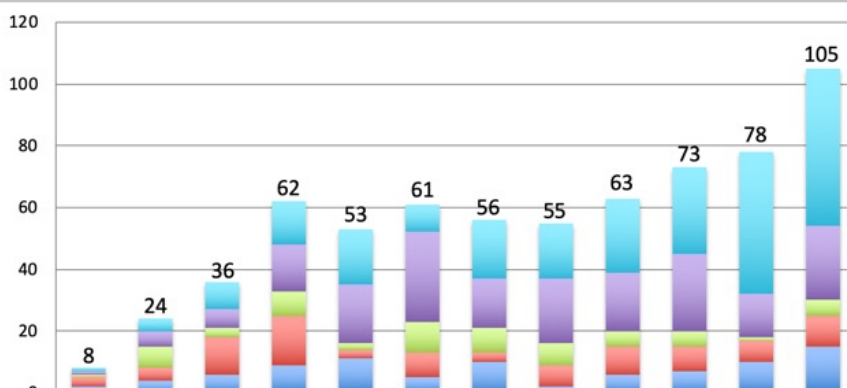


【実績】

105件(過去最多)
(内訳)
行政 51件
国際交流協会 24件
学校 5件
NPO/NGO 10件
その他 15件

【参加者の声】

- 声を上げることが大事だということが最も印象に残っています。自分の意見が聞いてもらえるかはわからないが、まずやってみることに意味があると感じました。私も、先頭に立って何かに挑戦できるようになりたいです。
- 外国人の方が悩んでいるのは勝手に語学だけだと決めつけていましたが、日本と外国の文化の違いなどで悩んでいると習い、言語だけ勉強すればいいという私の考えが変わりました。
- これからは、ボランティアにもITのスキルアップが必要になると感じました。
- 避難所巡回訓練では、実際に外国人の方と話をして、日本語で話すことの難しさを実感できました。聞き出したいと思うように聞き取れず苦労しました。

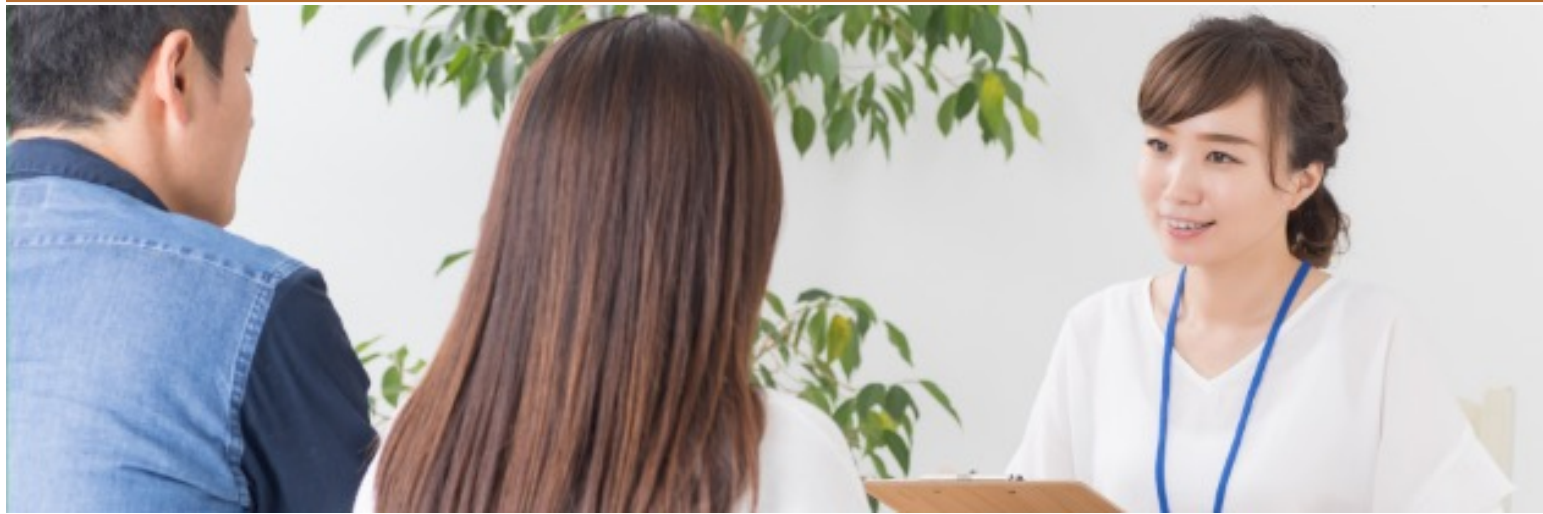


土井佳彦

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ほとんどの研修や相談等がオンラインでの開催となりました。従来の対面と比べると議論が活発になりにくかったり、操作に不慣れで作業がうまく進まなかったりということもありましたが、1回あたりの参加者数が増えたり、午前と午後で異なる地域での開催が可能となったりと、オンラインならではのメリットもありました。今後も対面とオンラインの併用が予想されます。

官民連携による多言語 相談窓口体制強化事業

県内の多言語相談体制の強化を目的に、行政や国際交流協会、NPO等との連携強化や人材育成を行う。(トヨタ財団事業)



【期間】

2020年5月1日～2022年4月30日(2か年)

【内容】

- ①多言語相談窓口実態調査の実施(1年目)
- ②相談員等への研修会開催(2年目)
- ③成果報告会の実施(年1回)
- ④多言語相談体制強化に向けた検討(毎年)

公益財団法人トヨタ財団 国際助成プログラム & 特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」
COVID-19時代における学びあい～人の移動と多文化社会の未来～
第三回「情報と制度」その1



今後の官民連携について

- ・ 1つの窓口だけで多様なニーズに対応できるのか
- ・ 公的機関で対応できないニーズにどう応えるのか
- ・ 特にNPOとの持続可能な連携方法をどう考えるか
- ・ 外国人に特化しない「住民サービス」にどうつながるか
- ・ 言語対応をどう考えるか

ヒアリング調査から事例紹介

- 平日夜間、土日はNPOに委託して窓口を運営
- NPOやボランティアと連携した同行支援
- 県で契約している通訳会社を県内市町村の相談窓口も活用
- 外国人技能実習機構や監理組合との連携

人材育成・研修について

- ・ 相談員・通訳者の役割は何か
 - ・ 相談の質をどう担保するのか
 - ・ 相談員や通訳者のモチベーションをどのように高めるか
 - ・ 研修に参加しやすい環境をどう作るのか
- ⇒いつ、だれが、だれに、どのような研修をどのように実施するか

ヒアリング調査でお聞きした意見

- 最新情報・知識を学ぶ場/基本的な心構え・姿勢を学ぶ場/
ケーススタディ/ネットワークを構築する場/
コーディネイトスキルを身につける場/悩みを共有し心をケアする場
- 悩んだ時に立ち返る基盤となるものが必要
- 業務に就く前/初任者/経験者にも定期的に
- オンライン研修の検討
- 勤務時間外の研修については、研修単価を決めて支払っている窓口も有



栗木 梨衣

実態調査およびその報告会を実施したことにより、多言語相談窓口の存在意義と役割、共通に抱えている課題を整理することができました。これらを踏まえ、来年度は、より質の高い相談対応をするための具体的な提案をまとめていきます。特に、オンラインを活用した研修は、「研修を受けたくてもなかなか受けられない」という相談員、通訳者の課題の解決方法の1つになりそうです。

帰国困難者等への生活支援事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で帰国困難な状況にある人等への支援に取り組む。
(READYFOR, 赤い羽根共同募金等助成事業)



【支援内容】

- ①相生山徳林寺:約150名(ベトナム、スリランカ、ネパール、中国)→145名帰国、5名就労
- ②民泊デラstay:2名(インドネシア)→就労
- ③物資提供:県内外10団体に食料約4トン、マスク1万枚



～帰国者からのメッセージ～

私は家族の生活が経済的に困難なため、家族の生活を向上させるためのお金を稼ぐ目的で日本に来ましたが、現在、新型コロナウイルス流行により、仕事も収入もなくなり、住む場所さえもなくなりました。私にとって幸運なことに、私はお寺の御住職をはじめ多くの支援団体等から保護を受け、私の困難を理解してくれ、食事と生活をするための安定した場所を得られています。この困難な時期に私と仲間を助けてくださった方々に、心からの感謝以外に何も言えませんが、改めて心より感謝申し上げます。

2020年5月に開始した帰国困難者支援は、現在も活動を続けています。12月からは支援対象を県内全域に拡大し、関係団体を通じて各地の生活困窮者等に食料やマスクなどを提供しており、ニーズの高さを実感します。詳しくは、右のQRコードから団体ブログ「帰国困難者支援活動」をご覧ください。毎月、活動報告をアップしています。



土井佳彦



情報発信及び ネットワーキング

多文化共生に関する情報を不特定多数の人に発信し、日常における多文化共生の認知度・理解度を高める。新型コロナ関連情報も多数。



特定非営利活動法人 多文化共生リソースセンター東海

国籍や文化に関係なく、みんなが安心して楽しく暮らせる社会にしたい

- ホーム
- 団体概要
- About us
- 活動実績
- 成果物等
- 講師派遣
- 会報誌
- メディア掲載
- サポーター募集
- お問合せ

多文化共生
NPO法人多文化共生リソースセンター東海

2021年5月の活動報告
研修・コンサルティング 12日に愛知県でも3回目となる緊急事態宣言が出され、対面で予定されていた会議や研修会等もすべてオンライン開...

帰国困難者支援活動-5月
先月下旬に一斉帰国があったとお伝えしましたが、その日の様子を大阪のABCニュースさんが特集を組んで放送くださったそうです。Youtubeにも...

「多言語相談窓口実態調査2020」報告会 実施概要&アンケート結果
去る3月27日に開催した「多言語相談窓口実態調査2020」報告会の実施概要と参加者アンケート結果をまとめました。当日ご参加いただけな...

2021年4月の活動報告
研修・コンサルティング4月の研修実施は1件のみでしたが、新年度に予定されている研修や事業のご相談は例年より多く寄せられています。い...

帰国困難者支援活動-4月
徳林寺では、4月8日のお釈迦様のお誕生日に合わせて、毎年4月1日から1週間の「花まつり」を開催しています。昨年は新型コロナの影響...

あいち新型コロナ関連情報共有グループ (AICO-19)

特定非営利活動法人 多文化共生リソースセンター東海

【ホームページ】
・閲覧数 17,500pv

【facebookページ】
・投稿数 3,771件
・いいね！ 3,077件
(前年度 +177)

【ブログ】
・投稿数 25件
・閲覧数 1,729pv

特定非営利活動法人
多文化共生
リソースセンター
東海



土井佳彦

今年度は各種媒体を通じて、多くの情報と団体活動の様子を発信することができました。また、団体ロゴを作成し、発信元のイメージ統一も図りました。来年度はさらに情報を充実させていきたいと思っております。「完全オリジナルフォントです。ロゴの中には○△□と言った形を取り入れ、多文化、多様性を表しています。」(制作者:松井陽介さん)



「外国人の子ども」×「発達障がい」 支援のためのライフコースマップ

外国にルーツをもつ発達障がいの子どもたちがライフステージごとに培うと良い能力や支援制度をまとめたライフコースマップの作成(ドコモ市民活動団体助成事業)

外国人の子ども×発達障がい
ライフコースマップづくり
成果報告会@オンライン



【開催概要】

＜成果報告会＞

2021年3月28日(日) 13:30-16:30

※オンラインにて実施

事前申込者: 123名

アーカイブ配信再生数:

part.1 62回 part.2 26回

part.3 18回 計 106回

＜ライフコースマップ＞

- ・ 障害児者の教育や就労に携わっている支援者、当事者(外国籍保護者)等による委員会にて作成
- ・ 日本語、ポルトガル語、英語、中国語の4言語
- ・ 乳幼児期から高齢期まで5つのライフステージごとに、利用できる福祉サービスや相談窓口、本人が身につけるスキル等をまとめている。

【参加者の声】

- ・ 「ライフコースマップ」にたいへん興味を持ちました。発達障がいのお子さんを持つ外国人保護者には、有益なツールだと思います。現場で活用したいと思いました。
- ・ 日本に暮らすサポートが必要な児やその家族が、言語や文化の違いに関わらず、資源に辿り着けるしくみを整えていくツールのひとつとして、ライフマップが広く活用されていく事を願います。
- ・ その時期に必要な関係機関や横のつながりだけでなく、多面的な連携した支援が必要だと感じました。

子どもの発達・発育が気になる
親のためのライフコースマップ
～ 外国籍の保護者の方へ～

「できた！」を大切にしている子育てのために

「子どもについてしまおう」と悩みをもつお母さんお父さんの多くが、子育てに強い不安を感じています。そしてその不安は急にやっできます。それに備えて子どもの成長の目安として、このライフコースマップを使ってください。

子育ての見通しがあれば準備ができ、落ち着いて、道がお子さんに聞けることができます。疲れたときも、相談場所を知っていれば早く助言を得ることができます。

子どもの発達のはじめは一人ひとりがあります。たくさん「できた！」をお子さんと一緒に喜んでください。その「できた！」はお子さんの大切な宝物になり、自己肯定感と他者信頼感をもった大人になってくれるはずです。

2018年度 ドコモ市民活動団体助成事業 | © 2020 多文化共生リソースセンター 東京

Criança | 0-5 anos
Jardim de infância / creche

Relações e habilidades necessárias para cada fase da vida

Habilidades que a pessoa pode adquirir

- 【 O que você pode fazer em casa 】
 - Cumprimentar
 - Ordenar corretamente uma rotina diária
 - Adquirir uma forma própria de se expressar
 - Hábito de organizar
 - Trocar de roupas
 - Banho / escovar de dentes
 - Tratamento de barbear
 - Tratamento para sair a fraude
- 【 O que você pode fazer no bairro 】
 - Cumprimentar
 - Brincar com o amigo
 - Relacionamento com outras pessoas que não são da família
 - Hábito de organizar

Envolvimento dos pais / ponto de vista

- 【 O que você pode fazer em casa 】
 - Clarificar várias oportunidades de experiência
 - Observar o estado da criança
 - Ler livros de histórias
 - Trocar de roupas
 - Banho / escovar de dentes
 - Tratamento de barbear
 - Saber os gostos, aversões e alergias do seu filho
- 【 O que você pode fazer no bairro 】
 - Clarificar oportunidades para passar um tempo com amigos da mesma idade
 - Informar ao pediatra ao seu rede sobre o estado do seu filho
 - Clarificar oportunidades para várias experiências na região
 - Participar de reuniões de pais que também tem filhos
- 【 No caso de imprevisto 】
 - Se você está preocupado com o desenvolvimento do seu filho, procure se consultar
 - Acessar-se no exame infantil de 3 anos

Balcões de consultas das instituições

Quando você deseja se consultar

- 【 Acolhimento sobre crescimento e desenvolvimento 】
 - Centro de Saúde Pública (Centro de Saúde)
 - Creche
- 【 Centro de Educação de Nagoya "Heart Friend Nagoya" (Bebê até estudantes do ensino médio) 】
 - Centro de Acolhimento Geral para Crianças e Jovens da Cidade de Gifu "Gifu-Gifu" (de 0 a 20 anos)

Quando você deseja usar o serviço

- 【 Assistência Médica 】
 - Instituições médicas (hospitais, etc.): diagnóstico de distúrbios
 - Centro de Cuidados Médicos
- 【 Serviço Público 】
 - Centro de Saúde pública - Exame médico para bebês (1 ano, 6 meses, 3 anos)
 - Prefeitura (Diator de Bem-Estar Social para Deficientes)
 - Procedimento de solicitação / emissão de cadastros para deficientes
 - Centro de Orientação Infantil: Exame de desenvolvimento
- 【 Creches, Jardim de infância 】
 - Trabalhador adicional de assistência à infância
- 【 Serviço de Bem-Estar 】
 - Centro de Apoio ao Desenvolvimento Infantil (de bem-estar / de médico)
 - Outros escritórios de Apoio ao Desenvolvimento Infantil
 - Apoio à visita nas creches: * Do 0 aos 18 anos
 - 【 Local de encontro 】
 - Grupos de pais que têm filhos com deficiência no desenvolvimento
 - Parques privados ao ar livre: Outros



河村 槇子

2018年から2年半をかけてライフコースマップを作成しました。途中、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、事業を一時休止しましたが、助成元より助成期間の延長の許可をいただき、オンラインにて事業を再開するに至りました。今回の事業がきっかけとなり、分野を超えた横のつながりに加え、年齢で見た縦のつながりへと連携の可能性が広がりました。ライフコースマップが必要な方に届くよう、今後の事業を展開していきます。